



Title	太宰治スタディーズ 第6号 目次
Author(s)	
Citation	太宰治スタディーズ. 2016, 6
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/57183
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「太宰治スタディーズ」第6号（2016.06） 目次

イントロダクション——〈戦争の時代〉／行動で纏つし物語

内海
紀子

4

特集 太宰治と戦争 1941-1945

1941年12月—1942年4月

「開戦」と文学——〈連續／切斷〉の問題／平 浩一

南方と文壇の「知的冒險者」／井原 あや

1942年9月—12月
〈思想戦〉の中の「花火」／野口 尚志

期待された両大家の「国民文学」と「非国民」としての「鉄面皮」／小澤 純

1943年1月—8月
アツツ島玉碎をめぐる文学場・文学者の動向／松本 和也

1943年9月—12月
私小説「作家手帖」と戦記物「軍隊手帖」と／大國 真希

1944年1月—4月
創作発表媒体縮小期における執筆活動／斎藤 理生

1944年5月—8月
新設文学賞と朗読文学／古岡 真緒

1944年9月—12月
貪欲なる〈生〉——書くことへの執着／長原しのぶ

1944年1月—4月
空襲と疎開、そのなかで書を続けようと／瀧口 純

1945年5月—8月
<あの> 戦争の終わりと敗戦の始まり／内海 紀子

明祥

松本 和也 戦時下的芸術家（宣言）——太宰治「一燈」試論
 滝口 明祥 禁止と奨励——太宰治『右大臣実朝』
 井原 あや 閉ざされた声——朗読文学としての「東京だより」
 斎藤 理生 太宰治『粹人』論——物語・顔・反復
 小澤 純 太宰治『お伽草紙』序論——戦時下における山岸外史との相互反照
 吉岡 真緒 太宰治「津軽通信」論——宛先不明の通信と敷居
 大國 真希 太宰作品に見られる音色の種類

書評

大國眞希著『太宰治 調律された文学』（翰林書房）

著者紹介・編集後記

野本

聰